

みやぎの 林業だより



特集 スマート林業推進による林業の成長産業化 ～林業最前線の新技术を追って～

表紙写真

(左)山頂でのドローン操作
(右上)ドローン画像の解析
(右下)苗木運搬ドローン



令和3年3月24日
発行

223号

目次

【話 題】◎特集：スマート林業推進による林業の成長産業化	1～2
◎林業技術研究施設・林業普及活動の御紹介	
①「少花粉スギの供給拡大に向けて施設整備を進めています」	3
②「木材実大試験機のリニューアル」	3
③祝！宮城県林業普及指導事業70周年	4
◎こんにちは！「みやぎ苔キャラクター」です	4
◎祝！池田理一郎氏が大日本山林会会長賞を受賞されました！	5
◎第40回全国豊かな海づくり大会開催記念イベント（県産品販売会）	5
◎季節のおたより①今年もコクガンがやって来ました	6
◎木をつかおう！「ログハウスセミナー」の開催	6
◎自然災害からの復旧報告	
①令和元年東日本台風からの復旧報告 vol.2	7
②東日本大震災からの復旧報告	7
◎登米管内における林道橋梁の点検・診断の取組について	8
◎県内産原木による原木しいたけ試験栽培の取組	8
◎各種制度の御紹介	
①みやぎ海外防災林・森林づくり管理方針の策定	9
②『宮城県治山施設長寿命化計画』の策定	9
③「みやぎ森と緑の県民条例」基本計画進捗状況について	10
◎令和2年度鳥獣被害対策研修会の開催	11
◎気をつけましょう「春の山火事に御注意ください！」	11
【市 況】◎木材市況の動向・特産市況の動向	12

※みやぎの林業だよりバックナンバーはこちら↓
<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/ringyo-sk/ringyo-dayori.html>



特集

スマート林業推進による

林業の成長産業化

林業最前線の新技术を追って

宮城県では、林業・木材産業の生産性の飛躍的向上に向けて、森林の管理や経営、木材等の流通分野において航空測量やICT等の新しい技術の導入を図ることとしており、「スマート林業」を推進するため、短期的、中長期的な構想として令和元年度に宮城県スマート林業推進構想を定めました。

事業者や関係機関と連携を図りながら、資源調査段階、生産段階、流通段階の各段階におけるICT等先端技術の活用を進めるとともに、人材の育成及び新規就業者の確保を図り、作業効率化と労働生産性の向上による林業イノベーションの達成と儲かる林業の実現を目指すものです。

【資源調査段階】

①森林情報の共有化

- ・ 県森林情報管理システムのクラウド化による市町村・事業者との情報共有化の推進

- ② 詳細な森林情報把握
・ ドローン(UAV)、地上レーザー等を活用した計測解析技術の検証・導入

【生産段階】

①造林・保育の効率化・省力化

- ・ 一貫作業システム、ドローンによる苗木運搬等技術の検討・導入

②先端技術活用林業機械導入

- ・ ICT搭載ハーベスタや路網設計支援ソフトを活用した素材生産等の実証・検討

③工程管理等システムの導入

- ・ スマートフォン・タブレット等を活用した工程・雇用管理システムの検討・導入

【流通段階】

需給マッチングの円滑化

- ・ 合板製材用原木や、FSC認証材、現場での生産状況等を関係者が情報共有できる需給調整システム構築

- 【体制整備・人材育成等】
・ スマート林業推進研究会等による検討、意欲のある林業事業者への支援

令和二年度は推進構想に基づき、事業者・関係機関と連携しながら新たな技術の活用に向けた取組を実施しています。

令和二年八月には、宮城県林業技術総合センターにおいて、宮城県スマート林業推進研究会の主催によるRTKドローンによる写真測量のデモ飛行を実施しました。



写真測量のデモ飛行実施状況

RTK搭載のドローン(Phantom4RTK)は基地局を設置することにより精度の高い測量が可能であるとともに、高低差の大きい山林においても標高地図のデータを事前に読み込むことで自動で地形に沿った飛行を行うことが出来る機体です。

県では、今年度RTK搭載機二機を導入し、様々な地形や用途において写真測量を実施し検証を行いました。



Phantom4RTK

写真測量は上空から計測した範囲を撮影し、撮影した画像を解析ソフトで解析することで、オルソ画像又は3Dの点群を作成します。

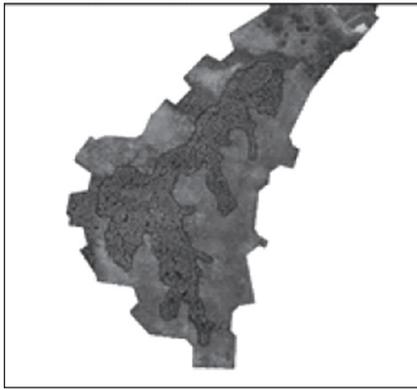
上空から自動かつ短時間で撮影できるため、測量作業の省力

化を図ることが期待できます。

【写真測量の実施手順】

- (1)事前準備(航空法の目視外研修等許可手続、その他法令許認可等、撮影箇所の標高、状況等確認)
- (2)飛行計画の作成(撮影区域の設定、高度、カメラの設定等)
- (3)測量の実施(周囲の安全確保、飛行前点検、飛行実施、飛行後点検)
- (4)測量結果の解析(解析ソフトに撮影写真読込、データ解析)
- (5)測量成果の活用(GISソフト等による解析結果の活用)

オルソ画像は平面、点群は立体(緯度、経度、標高)で位置情報を正確に把握できます。



作成したオルソ画像

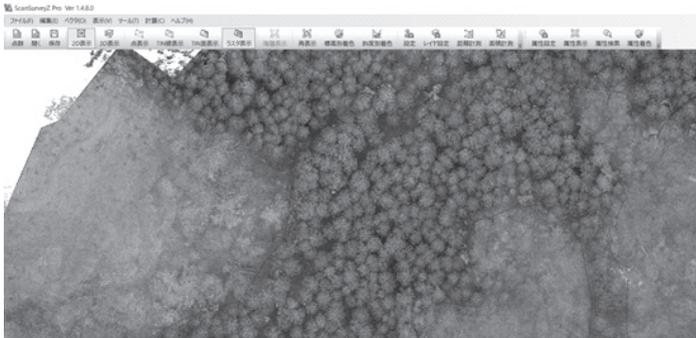


作成した3D点群

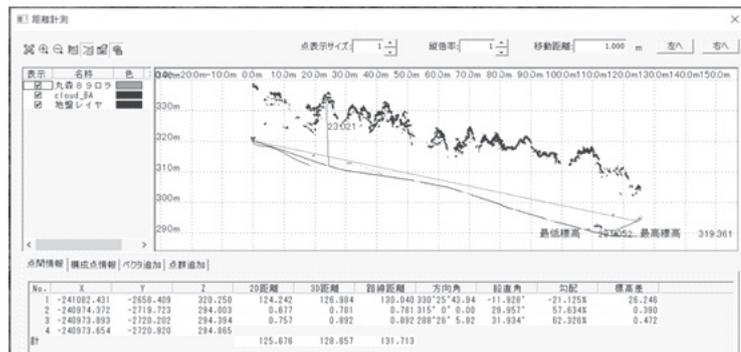
解析ソフトにより作成したオルソ画像又は点群をGISソフト(ScansurveyZ、QGIS、AssistZ等)に読み込むことで、面積や距離の計測、立木本数の確認等様々な活用が可能となります。

県では、伐採予定箇所や造林予定箇所、海岸林の植栽箇所等様々な条件で写真測量の解析とコンパスやトゥルーパルス測量との比較検証等を実施し、ドローンでの面積や距離の計測の精度を検証し、森林施業での計測に活用出来ることを確認しました。

伐採予定箇所においての人力での毎木調査とドローンによる写真測量の成果の比較検証を実施しました。検証結果では、約五分の区域で、本数で二十二本、材積で八十七mの差となりました。今後、データの収集と調査手法の検討を進めていく方針です。現地の作業効率では、ドローンの測量が人力より約八倍の効率となり、大きな省力化が期待できる結果となりました。ドローン測量の解析結果は周囲測量や路網計画の作成にも



点群から樹頂点を抽出



点群から断面図を作成

使用可能であり、さらなる効率化が見込まれます。

令和二年度に県は、林業スマート化就業環境向上支援事業による林業事業体へのスマート機器導入支援、素材新流通システム構築事業による木材需給システムの導入支援や宮城県森林クラウドシステムの導入を行いました。

引き続きスマート林業を推進していく方針です。

(林業振興課)

林業技術研究施設。 林業普及活動の御紹介

少花粉スギの供給拡大に向けて
施設整備を進めています

宮城県林業技術総合センターでは、少花粉スギ苗木の供給拡大を目的に令和二年度の施設整備を進めています。

少花粉スギとは花粉(雄花着花量)が一般のスギの1%以下の品種のことであり、精英樹から選ばれていますので成長等の特性にも優れています。

県では、「宮城県花粉発生源対策推進プラン」において令和十四年度までに県内で流通するスギ苗木供給量の全てを「花



挿し付け施設ミストハウス増設
(イメージ)

粉症対策に資する苗木」とすることを目標としています。今回の施設整備はその一環となります。

当センターでは年間八万本の少花粉スギのさし木苗(幼苗)を生産し、宮城県農林種苗農業協同組合員の苗木生産者へ配布しています。今回の挿し付け施設(ミストハウス)の増設により、年間十一万本に生産量を増加できます。



少花粉スギの挿し付け生産状況
(ミストハウス内部)

また、当センターでは少花粉スギの種子も生産しています。少花粉品種以外の花粉の影響を受けると特性が失われる可能性があります。花粉飛散時期に雌花へ袋をかけて人工交配による種子生産を行っています。現在、半閉鎖系採種園パイ

プハウスの新設を進めており、効率的な種子の増産を目指すこととしています。

引き続き、少花粉スギの増産や無花粉スギの開発を着実に進め、花粉発生源対策の推進に努めてまいります。

木材実大試験機のリニューアル

木材利用加工実験棟の実大試験機がリニューアルしました。

実大試験機は、木材を実際に使う大きさを強度を測る試験機です。アタッチメントの交換により木材の強度の基本的試験とされる曲げ試験、圧縮試験に対応します。最大容量は一〇〇〇キロニュートン(一〇〇トン重)です。

木材の強度性能を測定することとは県産材の活用を図る研究課題において、住宅等の荷重を支える構造用材に、安心して使ってもらおうデータを得るため不可欠なものです。また、製品開発や品質管理のため、民間事業者からの手数料条例による依頼試験も増加しています。

試験機は、平成二年に導入され既に三十年が経過しています。試験材料へ荷重をかける本体は稼働していますが、電子

機器を含む荷重指示計、コントロールユニットは数年来、電子部品の経年劣化による不調に悩まされてきました。今回、ついに修繕不能となったため、機器の更新を行いました。

新しい機器部は、従来と同様に荷重の上げ下げはマニュアルコントロールですが、機器の反応やハンドリングがよくなりました。また、油圧発生装置や指示計部分のレイアウトを変えたことにより、実験棟内が広く使えるようになったのもよいところです。

今後も、研究課題の試験のほか民間事業者からの依頼試験にも対応していきますので御活用をお願いいたします。



リニューアルした試験機

祝！宮城県林業普及 指導事業七十周年

令和二年度は、本県の林業普及指導事業がはじまってから七十周年の節目にあたります。宮城県林業技術総合センター内にある、普及指導チームが主体となり、記念誌の発行に向けた準備を進めています。

林業普及指導における十年間の取組内容を整理するとともに、東日本大震災等乗り越え、今後の林業振興に向け、各地域のキーマンへのインタビュー等を中心に編集することとしています。

〈記念講演会の開催〉

震災後、森林・林業分野での復興を全国に発信し続けてきた、佐藤仁南三陸町長を講師として、「南三陸町の復興と未来に向けた展開」という演題で記念講演を開催しました。

佐藤町長自らの震災による大津波被災体験から始まった講演は、当事者でなければ語れないエピソードを交えながら、我々林業普及指導職員をはじめとする県職員の地域振興に向けた大

きなヒントを与えてくれました。

講演の要旨は、七十周年記念誌に掲載することとしています。

記念講演会の後のパネルディスカッションでは、森林・林業から南三陸町の復興を支え続けた「南三陸山の会」の役員の皆さんから、これまでの数々の取組について紹介いただきました。

「全国初となる協議会方式による災害公営住宅の整備」、「FS-CFMグループ認証の取得」、「公共事業として日本第一号となる南三陸町新庁舎建設でのFSCプロジェクト全体認証」など、数々の「初」がつく取組について紹介がありました。



記念講演

(林業技術総合センター)

みやぎの苔キャラクター



宮城県生まれの苔たちが、キャラクターとしてデビューをしました。どうぞ、可愛がっていただきますよう、よろしく御願いします。

こんにちは！「みやぎ苔キャラクター」です

現在、県内栗原地域において、苔の栽培や地場産地化に取り組んでおり、今後は県全体へ広く苔の普及と認知度向上を図っていきます。

なお、キャラクターの趣旨にご賛同いただける方には、使用承認書をご提出いただき、キャラクターのデータもお渡ししております。

ご興味のある方は、県林業振興課ホームページか、林業振興課までお問い合わせください。



「みやぎの苔キャラクター」創作者「かぎしっぽのたらぼさん」(写真右)と林業振興課中村課長(写真左)による覚書締結式 (令和3年1月22日)

(林業振興課)



池田理一郎氏経営林

公益財団法人大日本山林会が主催する第五十九回農林水産祭に参加全国林業経営推薦行事におきまして、池田理一郎氏が、大日本山林会会長賞を受賞されました。

同氏は、石巻市にて整形外科医院の院長として地域医療に携わりながらも、登米市津山町地内において五代にわたり約百五十畝の森林を経営し「伐期一〇〇年の施業」を実践しています。実際の森林施業は、地元津山町森林組合に委託してい

祝！池田理一郎氏が大日本山林会会長賞を受賞されました！



池田理一郎氏

(東部地方振興事務所
登米地域事務所)

るものの、森林管理に関する計画の策定や、これに基づく経営については同氏が自ら行っています。また、医院の休診日には足繁く所有林に通うなど、常に所有林の状況を意識しているそうです。

さらに、平成二十九年に登米市森林管理協議会に加入するとともに全所有林の森林認証(FSC-CFM)を取得し、環境に配慮した持続可能な森林経営にも取り組まれているところで

今回の受賞は、このような模範的となる林業経営が高く評価されたものであり、当所としてもお慶び申し上げたいと思います。

誠にありがとうございます。

第四十回
全国豊かな海づくり
大会開催記念イベント
(県産品販売会)



令和三年
十月三日、
三行幸啓
の「第
四十回全
国豊かな海
づくり大会」

食材王国みやぎ大会」の開催記念イベントが二月一日から五日の間、県庁舎内で行われました。

イベントは、県庁ロビー一階で県内特産品販売会が行われ、林業関係では、「木製品」と「特用林産物(きのこ)」の販売を行いました。

二月一日は、「小さな木の家」が県庁舎ロビーに設置されたほか、七団体が出展し、約七十万売り上げがありました。

来場者は、宮城県のと山との幸を存分に満喫したようです。



小さな木の家



きのこの販売会



木製品販売会

(林業振興課)



季節のおたより

今年もコクガンが

やって来ました



コクガンは、「冬鳥」の一種で、秋にシベリア方面から渡来してきて冬を越し、春には再び北へ帰る国の天然記念物です。多くのガン類は、内陸の湿地に渡来する中、コクガンは海を生活の場にする唯一のガン類で、海藻やアマモ(海草)などを採食します。

当管内においては、気仙沼湾や志津川湾に渡来し、漁港や沖合でアマモを食べている姿を見ることができるとは、淡水が飲める河口付近でも確認することができま

す。毎年一月に全国で実施されるガンカモ類の生息数調査で、今年度は五百七十九羽が確認され、前年度の百七羽と比較して飛来数が大幅に増加しました。飛来数が増加した要因としては、沿岸部での震災復旧工事が終わりに近づいてきており、以前の静かな環境に戻りつつあること、また、事前調査でコクガンの飛来箇所が増えたことから調査地点を新たに追加したこと

が挙げられます。

管内の飛来地の中でも南三陸町の志津川湾は、豊かな藻場やコクガンの主要越冬地であることから、平成三十年十月に特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約であるラムサール条約に登録されました。宮城県では平成二十年の化女沼に続き四箇所目の登録になります。

今後は、当ホームページ等で積極的に情報発信をするほか、二カ年で実施している「愛鳥モデル推進校事業」を通じて、児童たちの愛鳥思想の醸成を推進し、自分の身の回りに希少なコクガンがいる自然の豊かさを実感してもらえよう、活動を支援していきます。



面瀬川河口のコクガン (撮影：R2.1.8)

(気仙沼地方振興事務所)

木をつかおう!

「ログハウスセミナー」の開催

十一月二十一から二十三日に栗原市栗駒地区で、一迫林業研究会主催の第三十七回一迫林間学校が開催されました。

「栗原市産のスギ丸太を使ったログハウスの製作体験」に、仙台市等から七名の参加があり、ログビルダーの資格を持つ研究会員の指導の下、寸法の確認や墨付け、チェーンソーによる加工などの作業に取組みました。様々な職業の参加者がありました。研究会が長年取り組んできた豊富なノウハウにより、工具等を初めて使う参加者でも交流を深め、楽しみながら作業を行いました。丸太の皮剥き、計測、接合部の加工などを、皆で力を合わせて行い、壁組の丸太を一段また一段と積み重ねて行きました。

参加者からは、「普段は建築設計に携わっていて、木材施工の感覚が理解できた。」や「木造住宅のセルフビルドを夢見ており、いつか基礎的なログハウスの作り方を学びたかった。」など、実践的な内容が好評でした。

た。

林業普及指導員も参加・協力し、参加者の作業をサポートしました。また、国土の保全や地球温暖化防止に貢献している森林の公益的機能及び林業の重要性、木材の加工に係る二酸化炭素の排出量がコンクリートの八十三%、鉄鋼の二%で済むことなどを普及しました。

同会の多年にわたる活動には、各会員の努力の積み重ねで継続されています。環境志向の高まりや若年層の参加者ニーズに対応するなど、今後も魅力ある活動の展開が期待されます。



ログハウスセミナー

(栗原地域事務所)

令和元年東日本台風 からの復旧報告

Vol.2

◆大河原地方振興事務所◆

宮城県内各地に甚大な被害をもたらした「令和元年東日本台風」から一年四ヶ月が経過しました。

この台風では、林地において数多くの土砂崩れが発生し、土石流が人家や道路を直撃するなど過去に例のないほどの被害を受けました。大河原地方振興事務所管内では、丸森町を中心に百四十箇所六十五億円もの林地被害となりました。

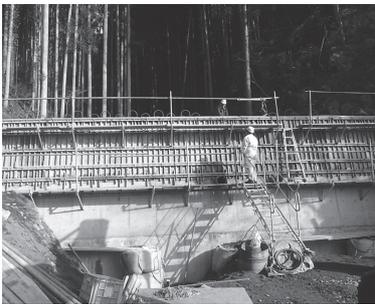
復旧にあたり、進入経路が断たれる等困難な中で全箇所被害調査を行い、復旧工法や施工方法の検討、地元関係者との合意形成など迅速かつ丁寧に進めた結果、予定どおり現場着手することができました。

現在、丸森町十三箇所、白石市一箇所、川崎町二箇所で林地被害の復旧工事を行っており、各箇所とも順調に工事が進んでいます。この工事では、「治山ダム」と呼ばれる溪流から土砂が人家や道路等に流れ出るのを防ぐための施設を三十八基設置す

るほか、崩壊した山を森林に戻すための土留工や植生工を行っています。令和三年中に全箇所完了することを目指し取り組んでいるところです。工事車両の通行等で現場付近の皆様には御不便をおかけしますが、地域の皆様の安全・安心な暮らしを守るため邁進しておりますので、引き続き御理解と御協力をお願いします。



被害発生直後の状況
(丸森町館矢間山田)



治山ダム工事の状況
(丸森町館矢間山田)

(大河原地方振興事務所)

東日本大震災からの 復旧報告

◆東部地方振興事務所◆

平成二十三年度より進められてきた、海岸防潮堤・海岸防災林の復旧工事が、令和三年二月末をもって全て完成しました。これによって、東日本大震災で被災した海岸部の保安林の復旧が、全て完了しました。防潮堤復旧は石巻市と東松島市で計六箇所実施し、総延長は約七㌔になります。防潮堤の背後には抵抗性クロマツにより防災林の再整備を進め、今年二月末に東松島市洲崎地区の十二㌔の植栽が終了したことにより、海岸防災林の復旧が終了しました。

令和三年度からは、植栽したクロマツの下刈りや除伐などの作業が中心になり、早期に海岸防災林の持つ潮害・飛砂・風害の防備などの機能が発揮されるよう保育管理をしていきます。

なお、植栽以外の取組として、「豊かな海岸植生」の再生を目指し植栽箇所や防潮堤前の砂浜などに、震災後に衰退した植物などの植生の回復を図るための取組を行っています。現地に

自生するハマヒルガオなど数種類の種を採取し、裸地化した箇所種をまき植生の回復を目指しています。

今後は、地域の方や子供達にも参加してもらい、環境学習や体験作業の場としても海岸林を活用し、皆さんに親しんでもらえる防災林にしていきたいと考えています。

最後に、平成二十五年から二十九年にかけ、高知県・兵庫県職員の四名の方の応援を頂き、あらためてお礼申し上げます。また、「みやぎ海岸林再生みんなの森林づくり活動」により、植栽・下刈り等に御協力頂いた方々にも感謝申し上げます。



東松島市「洲崎」地区

(東部地方振興事務所)

**登米管内における林道橋梁の
点検・診断の取組について**

登米市では、林道施設における長寿命化対策として既設林道橋梁を対象とした個別施設計画の策定を行っています。

令和元年東日本台風の影響などにより、策定に必要な林道橋梁の点検・診断作業が予定を大幅に遅れたことから、県と市が連携した職員直営による点検などの現地作業にあたりました。

現地作業を行う上で課題に挙げたのは、点検などの方法に関する知識が十分ではないことに加え、古い台帳に記載された橋梁の位置や基数が現地と合わないケースがあることでした。

このため、点検などの方法については、専門家による現地研修会を地域独自で開催し、点検者全員の知識及び技術の習得を図りました。また、台帳と現地との照合については、県と市の職員が合同で現地をくまなく踏査し、林道橋梁の実態を高い精度で把握することができました。

この結果、点検などに関する外部委託のために補助事業を活用した一部の橋梁を除いた約

六十基の点検を実施し、令和二年十二月までに全ての現地作業を終えることができ、点検などの結果をもとに今年度内に全基に係る計画を策定できる見込みとなりました。



点検・診断現地研修会の様子

今回の職員直営による取組により、市が管理すべき林道橋梁の正確な位置情報を把握し、今後の適正な管理に繋げることができただけでなく、災害時における被害調査を速やかにできる体制づくりを構築することができました。

県としましても、市が行う林道橋梁の点検などの作業に対し、引き続き必要に応じて支援していくこととしています。

(登米地域事務所)

**県内産原木による原木
しいたけ試験栽培の取組**

東日本大震災から十年が経過しましたが、しいたけ原木となるナラ林は依然として福島第一原発事故の放射能汚染の影響を受けており、県内産原木を活用したいしいたけ栽培は自粛されている状況です。

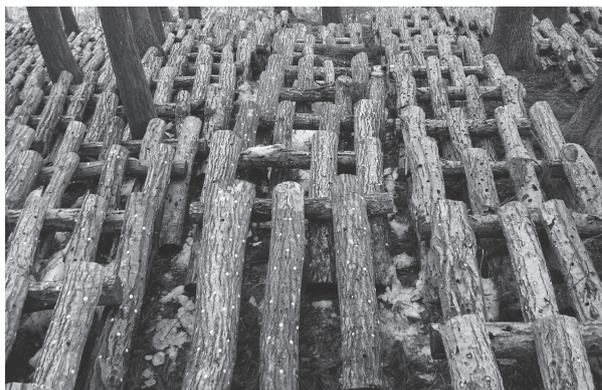
このため当事務所では、平成三十一年春から、県内産原木の利用再開に向け、原木しいたけ生産者の協力を得てプロジェクトチームを結成し、県内産原木によるしいたけの試験栽培に取り組んでいます。

試験栽培には六名の生産者が参加しており、県内で調達した指標値(50Bq/kg)以下の原木に植菌を行い、栽培マニュアルに基づき管理を行ってまいり、令和元年度には三箇所、昨年十二月までには全箇所からしいたけが発生しました。それらの放射性物質濃度を測定した結果、一部(基準値(100Bq/kg)を

超えるものもありましたが、六箇所中五箇所が発生したしいたけは基準値内(最高76Bq/kg)であることが確認できました。ま

た、しいたけのホダ木についても、新たに導入された非破壊検査機等により測定したところ、しいたけ原木は50Bq/kg以下の値であることが分かり、いずれも基準値を下回る有益な結果が得られました。

今後も試験栽培を継続しながら、安全性の確認を行うとともに、原木林の汚染状況調査などの結果も踏まえて、しいたけ原木として利用可能な地域の絞り込みを行うなど、早期に県内産原木の利用再開が実現できるよう取り組んでまいります。



試験栽培のホダ木(中央)

(仙台地方振興事務所)

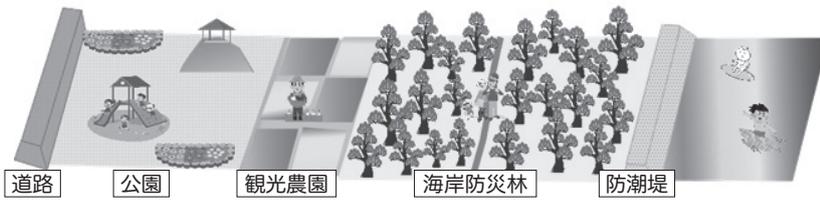
各種制度の御紹介

みやぎ海岸防災林・森林づくり管理方針の策定

東日本大震災による津波で壊滅的な被害を受けた海岸防災林は、国・県・民間団体が連携しながら、植栽基盤の造成工事やクロマツ等の植栽を行い、震災後十年の歳月をかけ再生されつつあります。

震災前に主に海岸防災林の管理を担っていた地元住民が転居を余儀なくされ、植栽後の保育や管理のあり方が今後の課題となる中で、平成二十五年度に始まった海岸防災林の植栽等に県民等が主体的に関わることで、できる仕組み「みやぎ海岸林再生みんなの森林づくり活動」は、復興支援から生まれた新たな連携の枠組みとして海岸防災林の保育管理や地域の振興発展に大きな役割を發揮する可能性を保持しています。

そこで、植栽により復旧した民有林の海岸防災林約七百五十軒の管理や活用について、国・県・市町・民間団体が協力・連



沿岸地域活用のイメージ

携して取り組んでいくことを目指し、令和二年十二月に「みやぎ海岸防災林・森林づくり管理方針」を策定しました。この方針は「みやぎ森と緑の県民条例基本計画」に基づき、海岸防災林の目指す姿を「災害に強い森林」、「地域に愛され大切にされる森林」、「震災を伝承する森林」とし、関係者が共通の認識のもと、適切かつ永続的な維持管理体制を構築すること

を目標としています。令和三年三月には、(仮称)みやぎ海岸防災林・森林づくり協議会を設立し、目指す姿の実現のため、広く普及啓発活動等の事業を展開していくこととされています。ぜひ、これからの海岸防災林に御注目ください。(森林整備課)

『宮城県治山施設長寿命化計画』の策定

県土面積の約六割を占める森林は、県土保全、水源かん養、生活環境の保全、地球温暖化の防止、木材等林産物の供給等、多面的な機能を有し、県民生活及び県民経済の安定に欠くことのできない「緑の社会資本」としての役割を果たしています。

このような森林の有する多面的機能が将来にわたって發揮されるためには、適切な森林の整備及び保全を図っていくことが重要であり、その基盤として治山事業は重要な役割を担っています。

本県の治山施設は、一九八〇年以前から積極的に整備を行ったことにより、設置後三〇年以上を経過したものが約九割を占める状況となっています。これらの治山施設は、森林の整備及び保全のための基盤施設として、山地災害から県民の生命・財産を保全するとともに、水源のかん養・生活環境の保全・形成等の森林の公益的機能發揮に貢献してきており、近年の激甚

化・頻発化する豪雨災害により、今後も施設の増加が見込まれています。

そのため、将来にわたって森林の機能を高度に發揮させていく上で、新たな施設整備に加え、これまでに整備した施設を維持管理していくことが重要であり、本県で管理する治山施設の維持・更新・強化を着実に推進するための基本的な考え方を明確にするため、令和二年十二月に『宮城県治山施設長寿命化計画』を策定し、将来にわたって施設の機能を適切に發揮させるための長寿命化対策を進めることとします。



老朽化した谷止工

本計画では、令和三年度から令和七年度までの五年間を計画期間とし、以降、定期的な点検を構築します。(森林整備課)



県では「みやぎ森と緑の県民条例」(平成三十年四月)により、「森林づくり」や「木材産業振興」に関しての目標指標実績を議会へ報告しています。

令和二年八月の常任委員会において、令和元年度の施策の実施状況について報告しましたので、政策ごとの目標指標に対する実績について、主なものを紹介いたします。

なお、報告内容全てについては、県林業振興課ホームページに掲載しておりますので、ご覧ください。

**「みやぎ森と緑の県民条例」
基本計画進捗状況について**

これからも、「持続可能な未来を創造する森林、林業・木材産業の実現」を目指して、様々な施策に積極的に取り組んでまいります。
(林業振興課)

みやぎ森と緑の県民条例基本計画 目標指標実績 (令和元年度)

目標指標	単位	参考値			実績		目標 R9
		H27	H28	H29	H30	R1	

政策Ⅰ 林業・木材産業の一層の産業力強化

素材生産量 (年間)	千m ³	537	586	578	614	610	700
木質バイオマス活用施設導入数 (累計)	基	39	41	55	61	64	60
CLTを用いた建築物の建設棟数 (累計)	棟	1	2	4	8	11	54
森林経営計画の策定率 (累計)	%	28	29	27	28	27	60

政策Ⅱ 森林の持つ多面的機能のさらなる発揮

松くい虫被害による枯損木量 (年間)	m ³	16,523	13,700	14,935	13,215	9,612	10,000
保安林の指定面積 (累計)	ha	66,813	67,203	67,495	67,779	68,274	70,872
山地災害危険地区(Aランク)の治山工事着手率 (累計)	%	56 (234/418)	56 (234/418)	45 (258/572)	47 (320/676)	48 (327/686)	65

政策Ⅲ 森林、林業・木材産業を支える地域や人材の育成

新規林業就業者数 (年間)	人	67	54	48	48	48	100
森林施業プランナー雇用林業事業者数 (累計)	事業者	7	7	15	16	18	28

政策Ⅳ 東日本大震災からの復興と発展

原木きのご出荷制限(自粛)解除生産者数 (累計)	人	22	31	39	44	49	66
特用林産生産施設のGAP認証取得数 (累計)	件	1	2	2	3	5	15

令和二年度 鳥獣被害 対策研修会の開催

令和二年十一月十七日に加美町において、地域住民や猟友会大崎支部加美分会の方々を対象とした、「鳥獣被害防止対策研修会」が開催されました。

今回は、近年増加しているイノシシ被害への対策として、イノシシの生態に詳しい野生生物研究所ネイチャーステーション代表の古谷益朗氏の講義のほか、有害捕獲を実施する際に遵守すべき内容などについて林業振興部森林管理班で説明を行いました。

古谷氏の講義では、イノシシの生態については間違った認識が多く、例えば、「一般的には夜行性と言われますが、実際には昼間に活動する動物」であり、更には「ミミズが好物で土を掘り返す」と言う説は、研究の結果、ミミズは好物ではないことが証明されているなど、研修を受けた方々は驚きながらも認識を改めていく様子でした。

この研修は、イノシシの生態を知り、適切な有害捕獲作業を実施するための遵守すべき法律

などについて学び、より安全で効果的な被害対策を行うことを目的としており、「わな」の構造の解説や設置技術についても実技指導を行いました。

市販している「わな」は、制作会社や地域によって構造や形が微妙に異なるため、設置が適切でないと捕獲率が下がるだけでなく、「わな」そのものが破損し、経済的な負担が大きくなる、ひいては錯誤捕獲や手負いになった獣による人身被害の発生リスクも高くなります。

このことから、法令遵守とともに、技術の向上を図るために、今後さらに関係機関、地域住民などと相互連携していくこととしていきます。

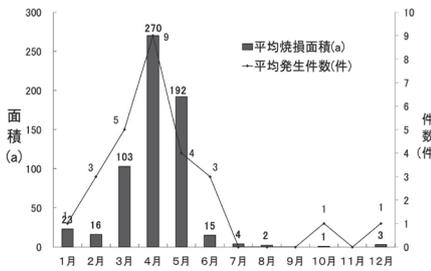


わな設置の実技指導

(北部地方振興事務所)

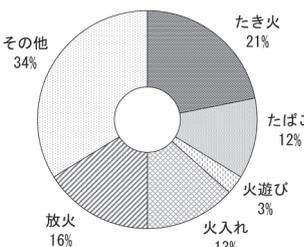
気をつけましょう 春の山火事に 御注意ください！

県では、三月一日から五月三十一日まで山火事予防運動を行ってまいります。例年、春先は雨が少なく空気が乾燥し、一年のうちで最も山火事が発生しやすい時期となります。平成二十六年から五年間の平均では、三月から五月にかけて十八件の山火事が発生し、約六分の森林が焼損してまいります(図一)。



(図一)月別発生状況
(平成26年から平成30年までの平均)

判明している原因では、例年たき火によるものが最も多く(図二)、僅かな不注意から発生しているものと考えられます。



(図二)原因別発生割合
(平成26年から平成30年までの平均)

(森林整備課)

枯れ草等のある場所ではたき火をしないこと、たき火等火気使用中はその場を離れず、終了後は完全に消火したことを確認すること、強風時及び乾燥時にはたき火、火入れをしないこと、たばこは指定された場所で喫煙し、吸い殻は投げ捨てないこと、火遊びはしないことなど、一人一人が気をつけることで山火事を防ぐことができます。

最近では新型コロナウイルス感染症予防で密を避けるため、アウトドア人気も広がっており、キャンプの後始末にも注意を払う必要があります。

山火事はいったん発生すると消火が難しく、広範囲に延焼することもあるほか、失われた森林の機能回復には長い年月がかかります。宮城の美しい森林を守るため、火の取扱いには十分気をつけていただくよう、御協力をお願いいたします。

木材市況の動向

表1 各共販所別木材市況(令和2年12月)

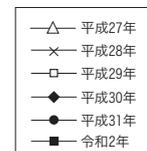
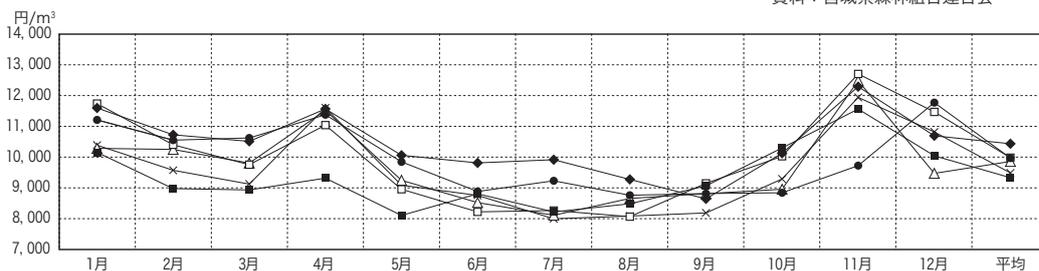
樹種	材長 m	径級 cm	価格(中値 単位:円/m ³)				
			仙南	仙北	大衡	津山	石巻
スギ	3.00	14~16	—	—	—	—	—
		16~30	—	—	—	—	—
		20~30	11,520	—	11,520	—	—
	4.00	10~13直曲	7,200	10,080	10,080	10,080	—
		14~18	9,000	10,080	10,080	10,080	—
		20~28	—	11,520	—	—	—
		30上	—	11,520	—	—	—
	3.65 ~4.00	20~28	11,520	—	11,520	11,520	—
		30上	11,520	—	11,880	11,520	—
	1.95	18上	—	—	—	—	—

資料:宮城県森林組合連合会

概況

素材動向

・素材価格は上昇の傾向にある。



素材:県森連共販所市況(平均価格)

図1 素材価格の動き

特産市況の動向

表2 生しいたけ価格の市況

単位:円/kg

年次	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
平成28年	1,037	1,025	972	946	965	955	961	977	1,018	1,014	998	1,054
平成29年	1,034	945	861	862	890	775	863	851	884	980	971	1,034
平成30年	1,160	958	947	795	958	851	836	913	987	968	929	1,009
平成31年	1,064	993	895	932	887	888	901	989	949	908	953	998
令和2年	999	965	977	1,006	973	958	926	944	1,057	1,044	989	1,001
令和3年	1,046											

資料:仙台中央卸売市場

概況

・平成24年に原木しいたけ(露地)が出荷制限指示を受けたこと等に伴い、価格は大きく下落したが、全国的な品薄状況を背景に平成26年次以降は900円代と、震災前の平均価格を上回っている。
 ・なお、令和2年なましいたけ年平均の単価(円/kg)は前年度を上回っている。

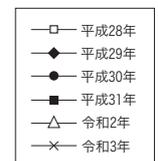
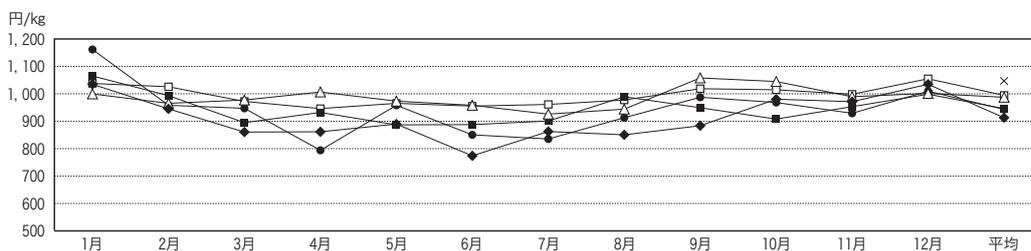


図2 生しいたけ価格の動向

表3 宮城県の新設住宅着工戸数(令和2年11月)

項目	総数	木造戸数	非木造戸数	木造率(%)
令和2年11月(戸)	1,453	1,095	358	75.4
令和元年11月(戸)	1,614	1,091	523	67.6
前年同月比(%)	90.0	100.4	68.5	—
令和元年12月~令和2年11月(戸)	14,614	10,556	4,048	72.2
平成30年12月~令和元年11月(戸)	18,256	12,526	5,730	68.6
前年同期比(%)	80.1	84.3	70.6	—

資料:住宅着工統計

概況

新設住宅着工戸数

・11月の新設住宅着工戸数は前年度を下回っており、木造戸数及び木造率は前年を上回っている。
 ・1年間の新設住宅累計及び木造住宅戸数は前年を下回っているが、木造率は上がっている。

国産材(生産販売)、木材チップ生産
製材業、伐出造林請負



宮城十條林産株式会社

代表取締役 亀山 武弘

本社 〒980-0871
仙台市青葉区八幡3丁目2番7号
☎仙台(022)261-2151(代) FAX(022)261-2150

営業所 気仙沼・栗駒・飯野川・大和・白石・郡山・岩出山
工場 気仙沼・栗駒・白石・岩出山
関連会社 宮十運輸株式会社・宮十造園土木株式会社
株式会社宮城環境保全研究所



坂元植林合資会社 株式会社サカモト 坂元植林の家

サカモトグループ



地域との共生
「めぐりめぐみ」をテーマに
私たちは自然を愛し、
大切に育てていきます。

〒989-1601 宮城県柴田郡柴田町船岡中央1-9-12
Tel:0224-58-1100 Fax:0224-58-2252
www.web-sakamoto.co.jp

宮城県木材チップ協同組合

代表理事 亀山 征弘
専務理事 亀山 武弘
理事 小澤 幸三
理事 石田 竜也
監事 阿部 貢夫
監事 一條 英夫

〒980-0871 仙台市青葉区八幡三丁目2番7号
電話 022(261)2151 FAX 022(261)2150

宮城県木材チップ工業会

会長 奥津 文男
副会長 亀山 征弘
副会長 永井 政雄
副会長 米澤 光秀
ほか理事一同

〒980-0871 仙台市青葉区八幡三丁目2番7号
電話 022(261)2151

緑をはぐくみ水をつくる
奥地水源地域の森林整備

水源林造成事業

宮城県水源林造林協議会

〒980-0011
仙台市青葉区上杉2丁目4-46
宮城県森林組合会館内
TEL (022) 266-7121

一般財団法人 佐々君治山報恩会

代表理事 遊佐 勘左衛門

〒989-6165 大崎市古川十日町4番14号
TEL (0229) 22-1281
FAX (0229) 22-1281
E-mail: sasakimi@proof.ocn.ne.jp

- 製材機械
- プレカット機械 「木」に関連する機械の販売及びメンテナンス
- 農林業機械



筒井鋼機株式会社

☎ (022)224-1261 〒980-0013
📄 (022)265-9231 仙台市青葉区花京院二丁目2番22号



弊社WEB

木のある豊かな暮らし
暮らしの木造・木質化を応援します！



- ・木の家づくり・街づくりにJAS製材品をおすすめします
- ・品質が良く、性能の明確なJAS製材品を使えば安心です

JAS 構造材

宮城県木材協同組合

理事長 千葉 基 tel:022(233)2883

住んでよし! 建てて満足!
「優良みやぎ材」の家



優良みやぎ材、県産材等についてのお問合せは

みやぎ材利用センター

仙台市青葉区東照宮1-8-8

▶本部/宮城県木材協同組合 tel:022(233)2883

▶建築資材部/宮城木材文化ホール tel:022(239)2661

スゴいぞ みやぎの木のチカラ! 公共建築物や店舗・事務所等の木造・木質化を進めたい

今、みやぎの森林は、年間消費の70年分を蓄積するまでに成長しており、今後はこの豊富な地域資源を有効に利用しながら森を育て、併せて災害防止など森林の多面的機能を向上させていくことが大切です。

国は、木材需要の一層の拡大に向け「公共建築物等木材利用促進法」を施行して公共建築物の木造化に率先して取り組んでおり、県内でも大崎市などにおいて地域材によるJAS製材品やCLT(※)を使用して公共施設の木造化を進める取組が進んでいます。

※CLT(直交集成板:板の層を直交するように積層接着した厚型のパネル)

カーボンニュートラルとされる木材は、高い断熱性や調湿性など材料としても優れているほか、ストレスや疲れを抑えるなど生理的・身体的な効果もあることが科学的に明らかとなっています。私たちは、地域の多くの人々が普段から利用する公共施設や店舗、事務所等を木造・木質化していくことに大きな意義があると考え、その実現に向け、宮城県をはじめ地域の皆様と連携してまいります。

宮城県木材協同組合の取組例

**JAS構造材利用拡大
支援事業**



アパート建築における
JAS材の利用

**外構木質化
支援事業**



門扉(塀)の木質化

宮城県からの支援(事業例)

**「Wood・もっと・みやぎ」
県産材需要創出事業(募集中)**

- ▶宮城県産の木材・木製品を活用し、店舗・事業所等の改築や木製品の導入に取り組む事業者に最大150万円(事業費の3/4)が支援されます。



問:宮城県建築士事務所協会 tel:022-223-7330
宮城県林業振興課 tel:022-211-2912

宮城県木材協同組合・みやぎ材利用センター 理事長 千葉 基 <https://miyagi-wood.jp/>

森林は大切な資源です
森林整備を通して
美しい森林を未来に伝えます



一般社団法人 宮城県林業公社
(森林整備法人)

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17
TEL (022)275-9171 FAX (022)275-9172
<http://www.miyagi-rinkou.sakura.ne.jp>



緑の募金

にご協力ください!

公益社団法人
宮城県緑化推進委員会

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17
TEL 022(301)7501
FAX 022(301)7502
<http://miyagiryokusui.com>

「公益信託 農林中金森林再生基金」(農中森力基金)^{もりちから}等を通じ、森林の公益性発揮を目指した活動を積極的に支援していきます。

農林中央金庫 仙台支店

〒980-0011 仙台市青葉区上杉一丁目2番16号 (JAビル宮城内) ☎022(711)7531(代)

私たちは森林づくりのプロフェッショナルです。ご相談はお近くの森林組合に！

JForest 宮城県森林組合連合会

仙台市青葉区上杉2丁目4-46
TEL022-225-5991 FAX022-225-5994

■優良みやぎ材の原木は

仙南地区木材センター 0224-65-2166 仙北地区木材センター 0229-72-1877
大衡総合センター 022-345-2205 津山木材センター 0225-68-3038

■樹木の枝や根の有効利用は ウッドリサイクルセンター 022-345-6041

花粉症対策スギ挿木コンテナ苗木, 海岸防災林用抵抗性クロマツ苗木をはじめ、
林業用及び森林復旧用各種苗木のご用命・ご相談承ります。

宮城県農林種苗農業協同組合

〒980-0011 仙台市青葉区上杉二丁目4番46号
TEL (022) 222-3661 FAX (022) 222-3688

林業の^今を伝える月刊誌

令和3年度の購読申込受付開始!!



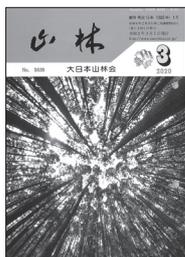
GR 現代林業

A5判 80頁
年間購読料 5,400円(送料込み)



林業新知識

B5判 24頁
年間購読料 3,000円(送料込み)



山林

A5判 66頁
年間購読料 3,500円(送料込み)

図書の申込、問い合わせは

宮城県林業振興協会

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17
宮城県仙台合同庁舎10階

TEL 022-301-7501
FAX 022-301-7502

発行 宮城県林業振興協会 仙台市青葉区堤通雨宮町四番十七号
編集協力 宮城県水産林政部林業振興課
☎022-222-3011 七五〇一